

# 通信

# No. 49

2012年度 冬号

発行：子育てサポートくるみ

住所 羽曳野市壺井508-1

TEL 072-957-3282 FAX 072-958-4089  
素敵なHPです！どうぞご覧ください → <http://kosodate-kurumi.com>

「子育てサポートくるみ」は、共同保育園を運営し、学童保育、障がい児保育、障がい児通所支援事業（児童発達支援・放課後等デイサービス）、子育て支援事業を行っているNPO法人です。子どもを育むのに大切な「自然・環境」「食事」などにこだわりを持ち、全国や海外からも注目されています。ぜひ、くるみのことを知ってください&応援してくださいね♪

## 「はたらきもの」

冬を迎えて、恒例のマラソンが12月から始まりました。寒さに負けない体力づくりのひとつとして、毎冬取り組んでいます。

朝8時30分、3・4・5歳児は近くの壺井八幡宮に出かけます。境内の坂を下り、石段を登ってくるコースを年齢ごとに往復する回数を決めて、毎日走っています。そして園に帰ってきて、雑巾がけ、落ち葉の掃除など、朝のしごとを終えてからリズム遊びが始まります。

くるみの子どもたちは本当によく働きます。園庭の掃除、ホールの雑巾がけ、食事の用意、後片付け、畑仕事、野菜の収穫などなど……。そうして年長になると、子ども達は日々の園生活では大人の助けなしに、たいていのことは自分で

できるようになっています。お手伝いや仕事をお願いしても快く引き受けてくれます。冬の雑巾がけは、水も冷たくて大人にもつらい仕事ですが、嫌だと言って投げ出す子は誰もいません。つらいことも最後までやり遂げる、この積み重ねが、粘り強さやあきらめない心を育てるのです。

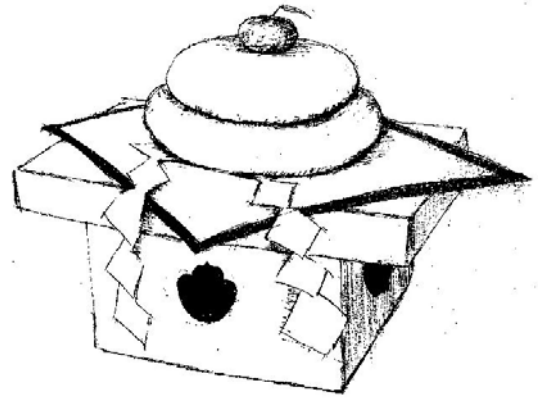


『だれでも生まれつきのなまけ者はいない。だれでも健康でそして愛されて育ち、まわりの大人が働くことを好むなら、みんな働くことが好きに育っていく。人間は本来、働く動物であり、労働によって猿から人間にかわるのができたのだから。そして、生れおちたときから、まわりの大人が全身を使って働いているのを見て育ち、その模倣で仕事をおぼえて大きくなったのだから。子どもたちは、大人の労働をまねて、体を動かし働くことのこころよさを知り、ものがつくりあげられていくことのよろこびを知る。種子や苗をうえると土が新しいいのちを育ててくれることを知り、それには、水も太陽も必要であることをさるとる。そして、労働の結果の収穫のよろこびを味わって、1年1年育っていく』（斉藤公子著「ヒトが人間になる」より）

「はたらく」ことはいろいろな大切なことを子ども達に教えてくれます。くるみの子ども達は「はたらきもの」という言葉が大好きです。

## くるみの1歳児

今年度のくるみの1歳児は12名。大きい子は2歳9ヵ月で、気持ちが外へ向かいだし、園外の散歩で花を摘んだり虫を捕まえたりと楽しく動き回ります。おしゃべりも好きになり「これ何」「何で」と大人は質問攻めです。小さい子はまだ1歳10ヵ月で、他者に関わりたいという思いがふくらんでいっています。でもまだ、自分の気持ちを言葉で十分に伝えられないため、友達とのけんかも起こります。1歳児のけんかは自己主張の現れ



です。くるみの保育では、ケガをしない限り、大人がけんかを未然に防ぐようなことはしていません。けんかを通して自分とは違う相手の存在を知り、子ども同士の関わりが発展するのです。時には大人の助けを必要とし、言葉をそえてあげなければならないこともあります。けんかをして大声で泣いても、大人が共感して自分の気持ちをわかってもらえると、立ち直ってまた遊びだします。物の取り合いは、代替りの物を用意してあげたり、2つのものから選ばせてあげたりするとたいていは解決します。

子どもは、1歳6ヵ月を過ぎると3度の食事（おやつを入れると4度）をしっかりと食べられる様になり、夜は熟睡できる様になります。生活のリズムが整うと、自分の力で歩いて体で色々な事を感じることが好きになります。この時期の子ども達の一番好きな遊びは「土と水」です。夏はプールで沢山遊びました。蛇口の水からはじまって、だんだんと溜めた水へ近寄って来る様になり、夏の終わりには自分のお腹の高さの水にも、顔をつけて“ジャブーン”と飛び込めるようになりました。秋は土山で遊びました。土に水を流して泥にします。月齢による差が幅広い1才児は、それぞれの発達段階で色々な遊び方をします。泥水に浸かっている子、泥でおだんごやケーキを作っている子、バケツで水を土山まで運び池を作って飛び込んでいる子。土と水は各々の工夫でどんな風にも自由自在に形を変えられ、想像力をふくらませてくれます。子ども達はそんな遊びが大好きなのです。



冬は寒さ対策に気をつけながら、しっかり歩けるようになった子は園外へ散歩に行きます。大人とだけでなく、子ども同士、保育園のお兄ちゃん・お姉ちゃんとも手をつなぐ事もできるようになりました。1歳を越えてひとりで立ち上がることで視界が広がり、色々なことに目を向けることができるようになります。他者に関心をよせるようになり、周りの人の真似をしたがり、行動の主体となって「自分で」挑戦しようとしています。そのチャンスを見逃さず、ひとつずつできる事をふやしています。楽しい遊びを沢山して子ども達は日々成長しています。

## 保護者のコーナー 赤井さん

(父)

平成 24 年 2 月に姉を 1 歳 6 カ月で入園させました。平成 24 年 9 月に弟を 0 歳 5 カ月で入園させました。

入園させてよかったと、夫婦共々感じております。くるみに通わせるようになって 1 年近く経つ今、感じていることを書かせていただきます。

入園させるまでは、家庭で迷いながらの子育てでした。何が正しいのか、何を優先させていけばいいのかという具合によく頭を悩ませていました。しかし、くるみに入園させるようになって身近に「～してみたらどうかな?」「～はしないほうがいいかな。」など相談や助言をしていただける人ができたことが私たちにとって救いでした。

また、くるみの職員の方々にはみな一つの方向性をもって保育していただいているということをししばしば感じます。これは、実は難しいことでありながらとても大切だと感じています。

保護者のみなさんも、「子どものために」ということでつながりあっているような気がします。それも、決して自分の子どものためというわけではなく「子ども達のために」という気持ちを持っておられると感じます。

私は、小学校で教員をしておりますが、その中で感じていることとして、児童は六年間の育ちの中で文字や数の勉強はその気になればいくらでも伸びてゆくことができると感じています。しかし、「学びや遊びの意欲」が薄い場合は、なかなかその気になっていくことが難しいです。反対に意欲にあふれる児童は、運動や音楽、学習においても実に前向きに取り組むことができます。私は、くるみではその「とりくむ意欲」を育てていくことができると感じております。

実際にくるみの保育を目にする中で、子どもたちがしっかりと座ってお話を聞く姿、よく発達した足腰で走り回る姿、もめごとが起きた時にはしっかりと自分たちで話し合おうとする姿などに驚かされました。

自分の子どもがこのような環境で育ちゆくことに喜びを感じております。

(母)

初めて、くるみを知ったきっかけは、友人の紹介でした。娘が生後四カ月経ったころから、くるみで行っている赤ちゃんの集いに参加し、赤ちゃんに適している服装のことから、抱き方、電子音に対すること等、聞くこと聞くことが初めて耳にするもので、育児書には書いていない、けどとても大切なこととお話しされ、どんどん引き込まれていきました。その中でも生活リズムの話では「夜 7:30 には、ふとんに入れる!」「朝 6 時までには起きる!」「そのうちにリズムができてきたら、その時間になったら勝手に寝ます。」の一言に「ほんまにい～??」という気持ちで信じられませんでした。それまでは抱っこしてトントンして寝かしつけるのが当たり前だと思っていただけにそんなやり方があるのかと、だまされたと思って実践してみました。初めはそれはそれは泣いて泣いて大変でしたが、日に日に変化が感じられ 1 週間、2 週間と続けているうちに布団に寝かせてトントンするだけで寝られるようになりました。そうすると、こちらの気持ちにも余裕が生まれてきました。それからは、毎月のように赤ちゃんの集いに参加していました。

そのうちに自分の子どもだけを気にするという視点から、「くるみの子たちの生活って…」と、その様子に視点が移り、水に戯れ、土にまみれ、「なんて素敵な生活を送っているのだろう」と、羨ましくすら感じるようになりました。くるみの子ども同士のとつながり、子どもと親以外の大人とのつながりを見ていくうちに「これって、家で育てているだけでは養えないんじゃないかな。」と感じはじめました。

「三つ子の魂百まで」と言いますが、幼い今だからこそ社会性を育てたいと思ったことも、くるみに入れたいと思った動機の一つです。

土や水など自然を介して、子どもたち大人たちがつながっていく、くるみ共同保育園。とても素敵な姿がここにはあります。1 年が経とうとしていますが、まだまだ親からみると自然にまみれて十分に遊びきれていないな…と感じているのですが、泥まみれになって遊んで帰ってくるのはいつになるやらわかりませんが、職員の方々同様にあせらず、待ちの姿勢で見守り続けていこうと思います。

## 保護者のコーナー 齋藤さん

入園してから2度目の冬を迎えました。

今から約4年前の春、夫の転勤で初めての関西暮らしが始まりました。当時我が子は一歳半、慣れない土地で周りに友達も少なく日中は母子二人で多くの時間を過ごしていました。振り返ると、子育てを楽しむというよりも何となく寂しい毎日だった気がします。そんな中、ある事情から同市内で再度引っ越し、落ち着かない日々がありました。その後、母である私の病気が分かり生活は更に一変しました。

特に食事を気をつける毎日、緊急的に通うことになった託児所の給食やおやつに疑問を持つようになりました。（ここではラムネ菓子やスナック菓子がおやつとして出ていました）きちんとした食事ができる園を探すうちにくるみ保育園を知りました。HPで調べると、給食は野菜たっぷりの和食が基本、おやつもお菓子でなく第4の食事としてのおやつ、…見つけた！と気持ちが晴れたのを覚えています。体験保育では青空の下でのおいしい昼食、園庭の坂を疾走する園児の姿（しかも速い!!）に圧倒されました。知れば知るほどここに通わせたいとの思いが強くなりました。ただ家からの距離や園の活動など不安もありましたが、夫の後押しもあり入園を決めました。

入園を決めてから不思議と子どもが慣れるかな？という不安はほとんどなく、ここなら大丈夫だろうという安心感がありました。それは今も変わりません。職員さん、父ちゃん母ちゃん達の熱意そのものだと思います。

入園して1年3ヶ月、我が子もすっかりくるみっ子。さくら・さくらんぼ保育の素晴らしさを実感しています。くるみ職員のみなさんありがとうございます。

春からワシさん、これからの成長も楽しみです。

## 行事予定（1月～3月）

※ 変更する場合がありますので、事前にお問い合わせください。

※ 「広報はびきの」に情報が掲載されますので、ご覧ください。

行事	日時	内容	備考
園庭開放	毎週火・水・木 10時～16時	広くて自然がいっぱいの園庭を開放しています。 汚れても大丈夫なように着替えやタオル等をもってお越しください。	無料・予約不要
絵本を楽しむ会	1月23日（水） 10時～11時	お母さんが中心となって活動しているサークルです。今年で3年目です。 この会を通して、絵本好きな子どもが増えるとうれしいです。そんなきっかけとなる会です。まずは参加してみてください。	無料・予約不要
赤ちゃんの子育て & 給食体験	2月13日（水） 3月13日（水） 9時半～11時	赤ちゃんの生活は一部分をとりだして、見ていくことは出来ません。 遊ぶ、食べるといった赤ちゃんの生活を、くるみで体験してみませんか？ 赤ちゃんのお昼ごはんは、くるみの給食を体験していただけます。	要予約 とも400円 (給食費)
リズム遊びの会 (& 給食体験)	2月6日（水） 3月1日（金） 10時～11時	歩いている子どもを対象にしたリズム遊びを行ないます。 子どもの発達を促すリズム遊びを体験します。 リズム遊びの会終了後、ご希望により給食も合わせて体験できます。(給食体験のみ有料) 給食は年齢に応じたメニューで食べていただきます。食材の切り方、味付け、食器等参考にしてください。	無料・予約不要 給食体験は有料 大人 600円 子ども 400円
体験保育	2月16日（土） 3月2日（土） 9時30分～14時	くるみの生活（遊び、リズム、食事）を体験した後、 午後より懇談（12:30～14:00）を行います。	要予約(食事代等込み) 大人 900円 子ども 600円

※個別子育て相談を随時、無料で行っております。お電話で予約をお願いします。

子育てには「不安」や「気がかり」がいっぱい。そんな時、気軽に心配事が話せたら楽になれますよ。

(食事、排泄、眠り、言葉、お友だちとの遊びについてなど)

※お子さんの安全に関しては、保護者が責任をもってご注意ください。お願いします。